

静岡県立病院機構の令和元年度業務実績に関する暫定評価（概要）

1 収益的収支（R1.9 末時点見込）

- 平成 21 年度の法人化移行連続して各病院の単年度経常収支比率 100%以上を継続見込み
 - 消費税増税等に伴う材料費・経費の増加等により、経常収支は前年度実績を下回る見込み
→平均在院日数短縮と新規患者獲得により病床稼働率の向上を目指す、収益改善努力を注視
 - 消費税増税、診療報酬改定、医療従事者の働き方改革など、環境変化への適切な対応が必要
- 【病院機構全体】 （単位：百万円）

項目	H30 年度（実績） A	R 元年度（見込） B	B - A
経常収益	46,385	47,760	1,375
医業収益	38,580	39,852	1,272
経常費用	45,386	47,329	1,943
医業費用	44,383	46,319	1,936
経常収支	999	431	▲568
経常収支比率	102.2%	100.9%	▲1.3
当期純損益	738	310	▲428

2 機構の業務実績・自己評価

（1）機構自己評価（機構が行動計画として設定した全 120 項目）

区分	項目数	備考
S：十分な取組、顕著な成果	2	【32】緩和ケアの推進(総)、【77】リサーチサポートセンター(総)
A：十分な取組、成果あり	109	
B：十分な取組	7	【67】ラーニングセンター(子) など
C：取組不十分	0	
計	118	(全 120 項目のうち、2 項目は未評価（データ集計中）)

（2）令和元年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和元年度計画において指標設定）

区分	項目数	備考
目標達成	19	
目標未達成	5	【9・10・11】紹介率・逆紹介率(三病院) 【25】入院患者数(総) 【53】小児がん登録件数(子)
未評価（データ集計中）	2	【8】患者満足度調査・【113】業務改善運動件数(三病院)
計	26	

3 県暫定評価

（1）県暫定評価（全 120 項目のうち、県が数値目標項目など 68 項目を「重点項目」として設定）

区分	項目数	備考
☆：良好で特に着目する状況	9	機構 S 評価の【32】緩和ケア、【77】RSC を含む
○：良好な状況	58	
△：より一層の取組を期待	1	機構 B 評価の【67】ラーニングセンター(子)
▼：取組改善を強く要望	0	
計	68	

(2) 項目別業務実績評価 (県着目項目の抜粋)

機構業務実績		県評価 (暫定)	
30 A	がん手術・放射線治療、がんゲノム医療提供体制強化	☆	<ul style="list-style-type: none"> 県内がん手術症例の集約化、先端医学棟における放射線治療装置の効率的運用を実現 日本遺伝性乳癌卵巣総合診療制度の基幹施設に指定
32 S	がん緩和ケア体制の充実 (H30: 812件→R1: 2,345件)	☆	<ul style="list-style-type: none"> 患者の身体・精神両面の症状軽減に向けた医療を提供、精神科医師の着任により緩和ケアチームが活発化 高度な放射線治療や緩和ケア提供体制を備えた地域がん診療連携拠点病院 (高度型) の国指定を申請
47 A	医療観察法の地域病院向け 初任者研修開催 (4病院参加)	☆	<ul style="list-style-type: none"> 退院後の地域社会での医療提供等に向けた、法理解の裾野拡大に向けて医療観察法初任者研修を初開催
53 B	こども小児がん登録件数 (目標: 60件→暫定 23件)	☆	<ul style="list-style-type: none"> 小児がん拠点病院としての小児がん相談室の設置、A Y A 世代支援に向けた研修会開催、ハンドブック作成などの県内ネットワーク構築を評価
14 A	総合へのこころ精神科医師の 1人着任	☆	<ul style="list-style-type: none"> 精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチームに参画、診療報酬加算算定件数増に大きく貢献
22 A	こども発達小児科の 常勤医 1人増員 、県と連携した東部 地域医師に対する研修の実施 (4人・年12回)	☆	<ul style="list-style-type: none"> 初診待ちの長期化は継続しているが、現行体制で可能な限りの専門外来実績を評価 県発達障害者支援センターとの連携強化、専門医師の確保、地域と連携した早期診断・早期療育等の取組を期待
61 A	総合: 正規医師数の増加	☆	<ul style="list-style-type: none"> 総合の正規医師が14人増 (前年度比) 救急医療現場等の医師の働き方改革の影響や人件費増の経営への影響を注視して医療従事者確保を期待
76 A	こども院内保育所の運用開始	☆	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度供用開始し、定員30人から80人に増員 対象年齢引上げ、二重保育、病後児保育等にも新たに 対応し、職員の就労環境向上に寄与
77 S	リサーチサポートセンターの 臨床研究数の増加 (H30: 332件→R1: 267件)	☆	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究数や客員研究員が増加、文部科学省科学研究費など、研究体制強化 慶應義塾大学大学院医学研究科と連携・協力協定締結 今後も医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境による医師確保への貢献を期待
	きこえとことばのセンターの 厚生労働省表彰の受賞		<ul style="list-style-type: none"> 全国に先駆けた早期新生児聴覚検査体制の県内整備への貢献と検査実施後の早期治療支援等の取組努力の継続により、国表彰を受賞
67 B	こども本館リニューアル工事 によるラーニングセンターの 使用休止	△	<ul style="list-style-type: none"> 施設改修計画と整合を図りつつも、院内研修のセンター集約により研修環境を改善する運営検討部会の方向性を継続できるよう、運用・検討を要望